


研究データ管理



学術コミュニケーションの変容 と大学図書館

慶應義塾大学文学部
倉田敬子

大学図書館の役割

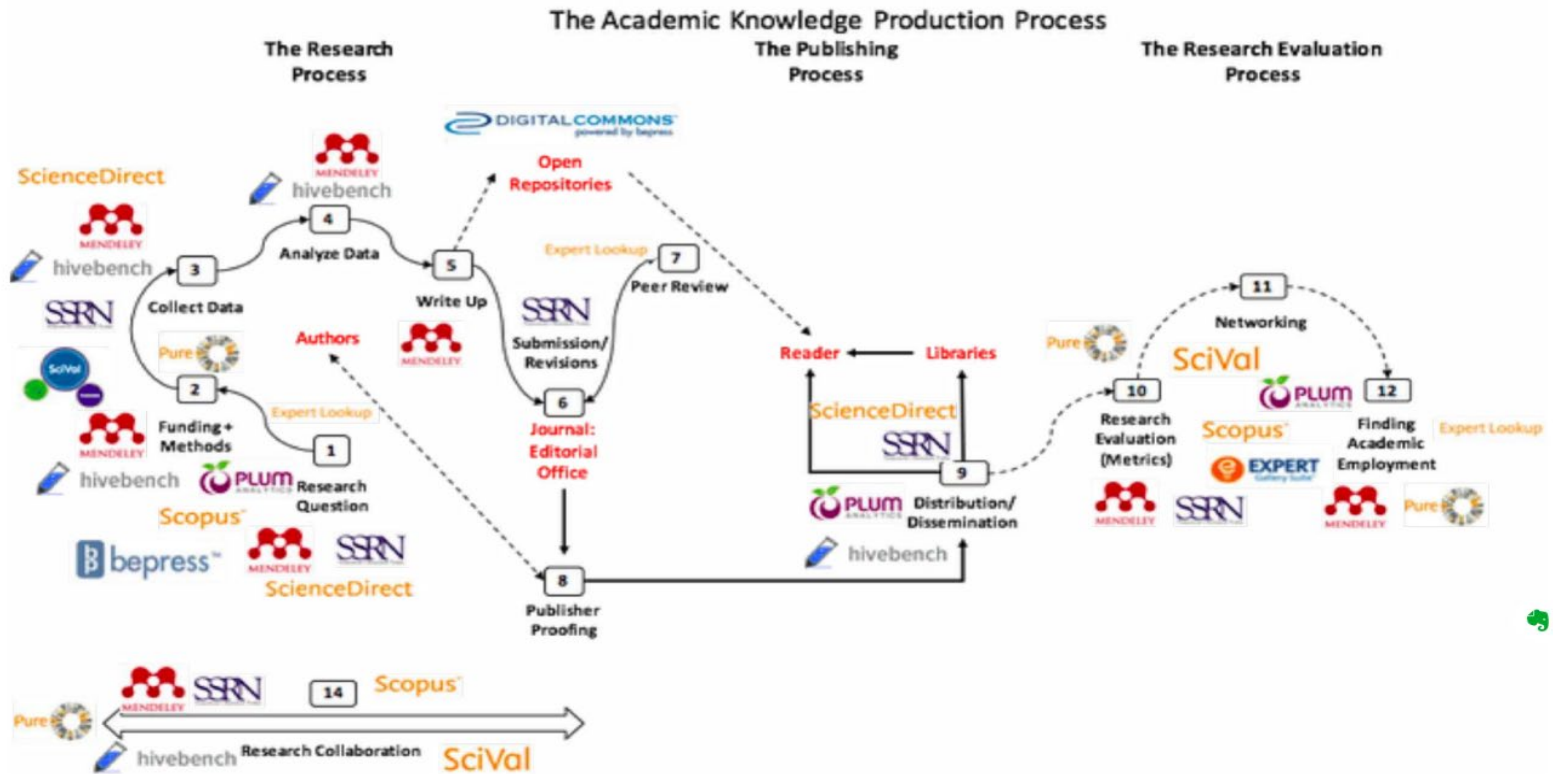
- 目的: 大学の教育研究支援
学術資源の収集・提供に基づく

- 学術コミュニケーションの変容
 - 研究成果(素材)のデジタル化
 - 研究プロセスのオープン化と共有

研究支援と大学図書館

- 学術コミュニケーションの中心
研究成果の学術出版<循環>

- デジタル化: EJ, 電子書籍, etc
大学図書館が対応

- 研究プロセスのオープン化
大学全体, 国, 分野横断的支援

Elsevier社の統合戦略

Figure 5: Elsevier Presence Throughout the Lifecycle



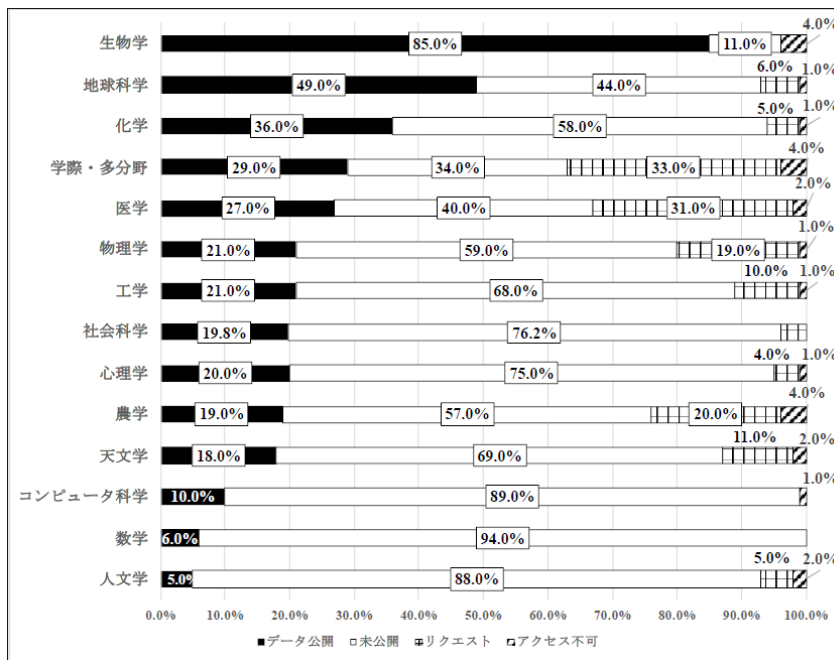
Alejandro Posada and George Chen, "Inequality in Knowledge Production: The Integration of Academic Infrastructure by Big Publishers," paper presented at ELPUB 2018, June 15, 2018, doi.org/10.4000/proceedings.elpub.2018.30, p. 6

データ公開ポリシーと公開状況

● 14分野IF上位10誌 (計140誌) 2021.3

| 必須 | 推奨 | 言及 | なし | 計 |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 31.4% | 45.7% | 10.0% | 12.9% | N=140 |

● 140誌掲載各10論文 (計1400論文) 2021.3



● データ公開論文
26.1% (平均)

● 公開場所
Github, NCBI

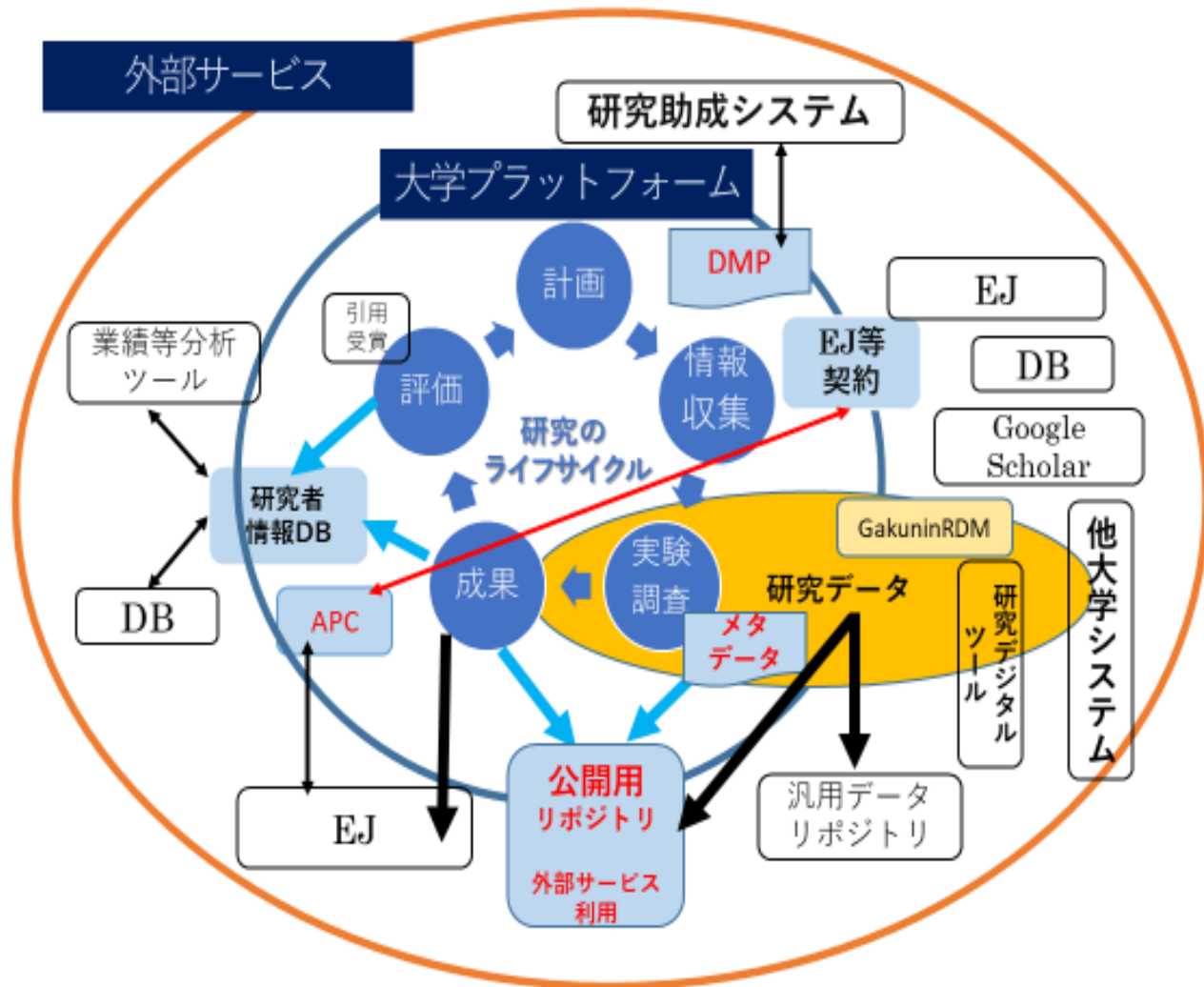
王雨晴. 学術雑誌の研究データポリシーと掲載論文における研究データ公開. 2021年度慶應義塾大学修士論文

第6期科学技術・イノベーション 基本計画

大学に対する数値目標

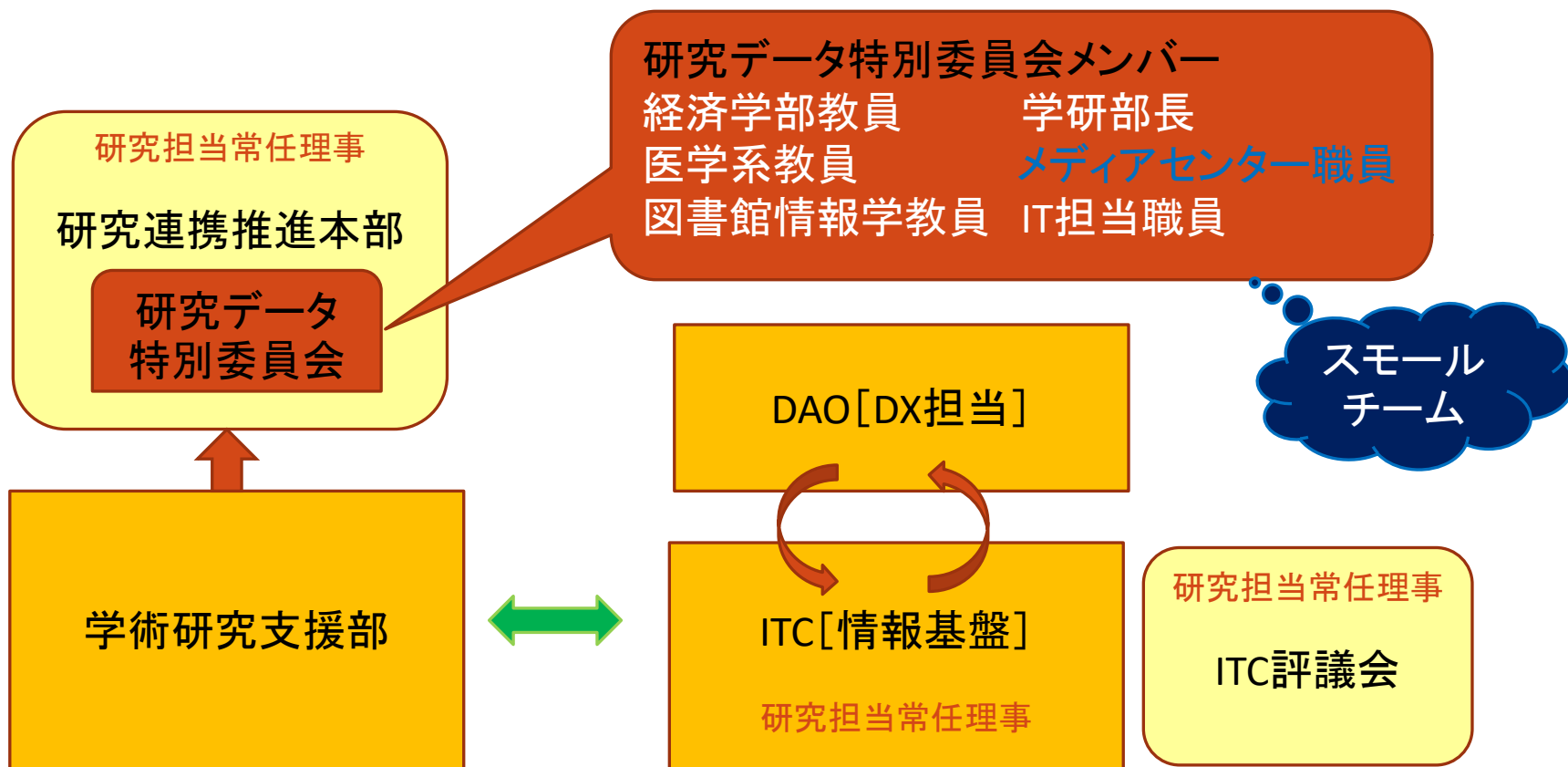
- 2025年までにデータポリシー策定
- 2023年度までにDMPおよび連動したメタデータ付与の仕組みの導入

大学研究プラットフォーム



- 研究のライフサイクルの支援
- 大学内の研究, 研究者に関連する情報のネットワーク化
- 外部サービスの有効活用, 外部システムとの連携

慶應義塾における 研究データ管理担当部門



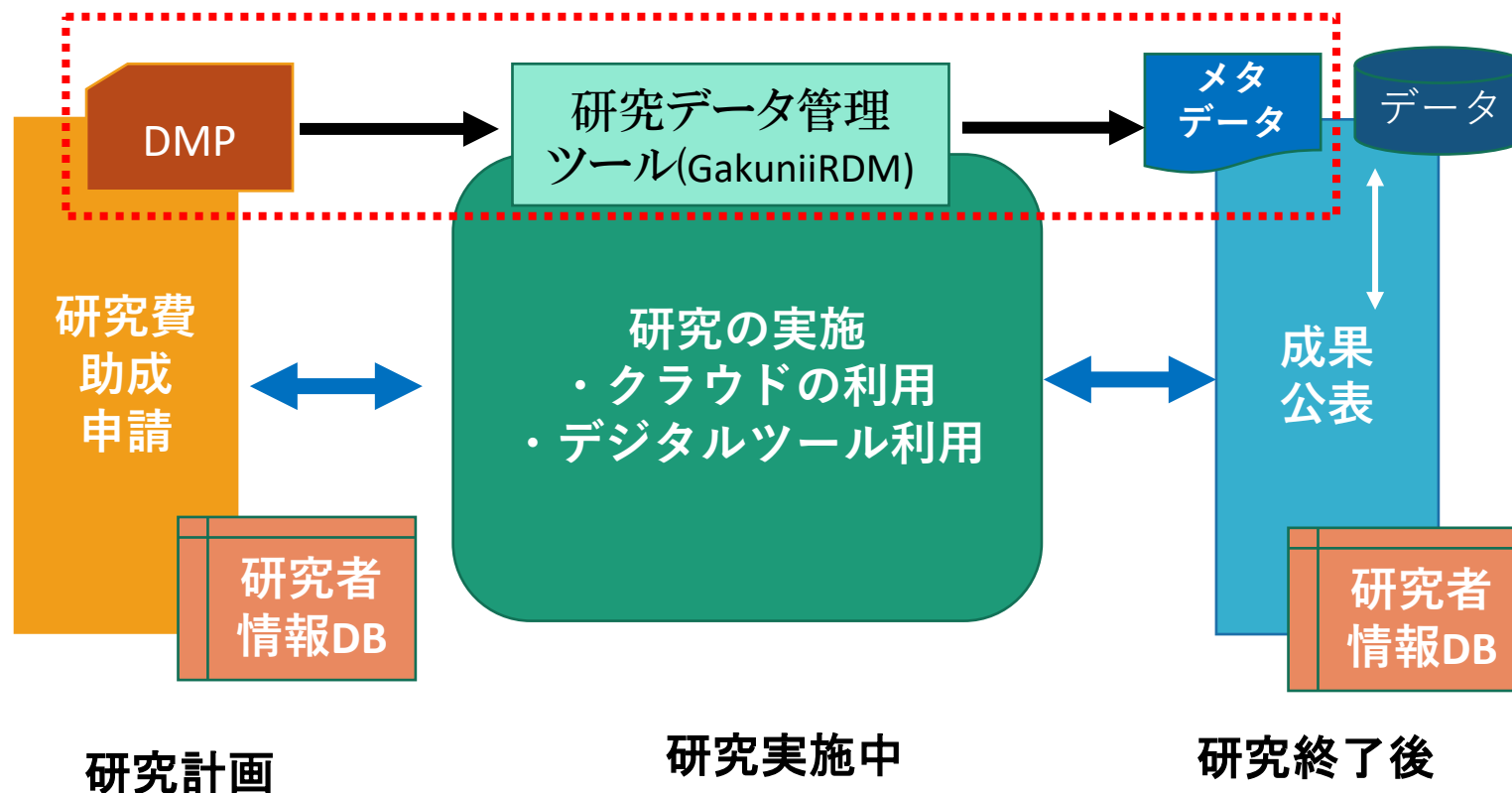
取り組み

- 研究者質問紙調査＜研究データ＞
- 研究連携推進本部講演会
- 研究データ特別委員会設置
- 研究データポリシー策定（完成）
⇒ 常務会へ
- 研究データ管理計画，入力システム

学術データ管理利活用 ポリシー

- 既存のポリシーを踏襲
 - 目的: 大学の理念との関係
 - データの範囲
 - 研究者の責務
 - 大学の役割
 - データ管理の最終責任 × 帰属
 - 学問分野の多様性の重視

研究データ記録



研究データ管理の項目

● AMED, NEDO, 内閣府, 英国DCC参考

1) 研究プロジェクト情報

2) 研究データ(セット)情報

➤ データ作成者, 収集方法, 内容記述

3) 研究中の保管

4) 倫理・法律のコンプライアンス

5) 研究後の保存, 公開・提供

6) 研究成果情報<リンク>

大学図書館の役割

- クラウド, 機器, デジタルツール
情報基盤部門が中心
- 研究助成申請, 研究者情報DB
学術研究支援が中心
- 成果公表, データリポジトリ, メタデータ
大学図書館への期待
図書館の業務としてどう位置づけるか